

Smart Walk-Thrusのチートシートに切り替える

SmartWalk-Thrusは、オンラインガイダンスをこれまで以上に速く作成できるように設計されています。Smart Walk-Thrusには、プロセス全体および複雑なプロセスの構築が簡単になる新しい機能をすばやく可視化できるマップビュー機能が備わっています。

Walk-ThrusからSmart Walk-Thrusに切り替えようとしている場合、この記事は切り替えを迅速にする機能の特定に役立ちます。

また、[Smart Walk-Thrus](#)についての一般的な情報や[Smart Walk-ThrusがWalk-Thrusとどう異なるのか](#)についての情報もあります。

異なるステップから開始する

ユーザーは常にホームページからプロセスを開始するとは限りません。最高のユーザーエクスペリエンスのために、ガイダンスはユーザーがどこにいるかを認識し、関連するステップのみを表示できるようにする必要があります。Smart Walk-Thrusでは、こうしたエントリーポイントの追加がこれまで以上に簡単になりました。各ステップでは同じ目標を達成するために複数のスーパーステップを追加する代わりに、独自の開始ポイントを設けることができます。

 <p>Walk-Thruの機能</p>	 <p>Smart Walk-Thruの機能</p>
<p>ステップにジャンプ 複数の「ステップにジャンプ」がWalk-Thruに追加され、リストの上部にドラッグされます。リストが正しく確認されるためには降順でなければなりません。</p>	<p>Start Points (開始ポイント) プロセスのステップに開始ポイントを追加します。各開始ポイントにはURLを特定したり、ステップのエLEMENTが表示されるかどうかを決めたりする独自のルールがあります。開始ポイントは下から上に向かって確認されます。 開始ポイントの作成について学ぶ</p>
	<p>Smart Walk-Thruの再起動ステップ エンドユーザーが同じSmart Walk-Thruを複数回利用できるようにすることで、開始ステップを再利用できるようにします。 Smart Walk-Thruステップの再起動について学ぶ</p>

スポットライト

スポットライトは、選択したエレメントがユーザーに注目されるように、画面のその他の部分にオーバーレイを重ねるように設計されています。エレメントの一部が重なっている場合、「画面上のカスタマイズ」メニュー内で手動によりスポットライトを移動させてエレメントを完全に重ねることでフィールドに入力できるようになります。

ステップの自動化

エレメントのクリックやテキスト入力など、特定のアクションを自動化します。メニューを開くこともできます。Smart Walk-Thrusの統合された標準アクションにより、簡単にカスタムアクションを作成できるようになりました。

 Walk-Thruの機能	 Smart Walk-Thruの機能
<p>ステップの自動実行 ステップが作成された後、ビルダーは外観メニューにバルーンが表示されないようにし、行動メニューからステップの自動実行が開始されるようにする必要があります。スーパーステップメニューでは自動化されたその他のアクションが見つかりました。</p> <p>その他のスーパーステップ</p> <ul style="list-style-type: none"> メニューを開く リダイレクト ページの更新 	<p>自動ステップ 自動ステップでは、クリック、ホバー、フォーカス、エレメントへのテキストの入力、ドロップダウンメニューからのリスト値の選択など、あらゆる種類のエレメント向けアクションを実行できます。 自動ステップの作成について学ぶ</p> <p>ページアクションのステップ ページアクションでは、プレーヤーメニューの開始、ページの更新、新しいページへのリダイレクトなど、さまざまなアクションを実行できます。 ページアクションステップの作成について学ぶ</p>

同時に2つのステップが表示されます

通常、一度に1つのバルーンのみ表示させることを推奨しますが、複数のバルーンが表示されることが推奨される場合があります。長いフォームでは、一般的な指示が付いているバルーンがページの上部に配置され、2番目のステップが送信ボタンの下に配置されます。過去には、個々のフィールドの検証に複数のバルーンが使用されました。現在SmartTipsを使用して個々のフィールドの検証を行うことを推奨しています。

 <p>Walk-Thruの機能</p>	 <p>Smart Walk-Thruの機能</p>
<p>複数のバルーントリガーを持つ複数のバルーン Walk-Thruに同時に表示されるステップを作成するには、同時再生を意味するすべてのステップでバルーントリガーを使用します。最後のステップでは、その前に再生されるすべてのステップのものとは異なるトリガーを使用します。ステップリストでは、同時に再生されるステップが1つのリンク記号で接続されており、最終ステップは通常のステップのように表示されます。</p>	<p>ピアステップ ピアステップは同時に表示されます。メインランチのステップには固有のトリガーがあります。ピアステップとして追加されるステップにはトリガーがなく、マップに水平なラインとして表示されます。ステップを別のステップ上にドラッグアンドドロップするだけでピアステップを作成できます。 ピアステップの作成について学ぶ</p>

別のWalk-Thruに接続する

Walk-Thruによる複数のパス作成はSmart Walk-Thru以上に簡単ですが「Walk-Thruで別のステップを作成する」を参照)、2つの異なるプロセスを接続したい場合もあります。これにより各プロセスがメニューに表示され、同時にユーザーを複数のWalk-Thruの間でシームレスに切り替えることができます。

 <p>Walk-Thruの機能</p>	 <p>Smart Walk-Thruの機能</p>
<p>Walk-Thruへのブランチ ユーザーはまず、ブランチするWalk-Thruを作成する必要があります。新しいWalk-Thruに、ユーザーがすでに作成済みのWalk-Thruに切り替えるかどうかを決定するルールと共に「Walk-Thruのスーパーステップへのブランチ」が追加されました。Classic Walk-Thrusはリニアに実行されるため、通常は複雑なプロセスに使用されます。</p>	<p>Connect to Smart Walk-Thru (Smart Walk-Thruに接続) Smart Walk-Thrusでは、複雑なプロセスを作成する方がはるかに簡単です。ほとんどの場合、Walk-Thruに別のステップ/パスを作成することができます（以下を参照）。2つの固有のWalk-Thruが必要な場合は、「Smart Walk-Thruへの接続を追加する」を使用して、既存のWalk-Thruを選択します。 Smart Walk-Thruに接続する」の作成方法について学ぶ Smart Walk-Thruをいつ切り替えるかをWalkMeに決定させる Rule Engine (ルールエンジン) を使用してユーザーが別のWalk-Thruに接続するかどうかを決定したい場合、「分割」を追加して別のブランチで「Walk-Thruに接続する」を設定します。 または Smart Walk-Thruの切り替えをユーザーに決定させる Smart Walk-Thruを切り替えるかどうかをユーザーに決定させたい場合は、パルーンに別のWalk-Thruに接続するリンクを追加します。ブランチはマップに自動的に作成されます。</p>

注：Smart Walk-ThrusにはSmart Walk-Thrusのみが接続される場合があります。現在Smart Walk-ThruをClassic Walk-Thruに接続することはできません

Walk-Thruに別のステップ/パスを作成する

特定のステップについては、以前に選択されたか、画面上の表示に基づくユーザーのサブセットのみに関連する場合があります。Smart Walk-Thrusアプリでは、別のステップで複雑なプロセスを作成したり、ユーザーのために異なるパスを完了させたりすることができます。

 <p>Walk-Thruの機能</p>	 <p>Smart Walk-Thruの機能</p>
<p>ステップ再生ルール 別のステップが他のステップと同様に追加されると、行動メニューからステップが再生されるかどうかを決定する「ステップ再生ルール」が作成されます。複数のステップが必要な場合は、それぞれのステップに対応した再生ルールが必要です。このためリニアリストでは理解が困難になります。また、複数のステップ再生ルールが存在するためQAテストの負担が重くなります。</p> <p>Walk-Thruへのブランチ ClassicWalk-Thrusはリニアに実行されるため、独立したWalk-Thruを作成して「Walk-Thruのスーパーステップへのブランチ」を使用した方が、別のステップの管理が簡単になる場合が少なくありません。</p>	<p>フローステップの分割 分割によりSmart Walk-Thrusで別のステップまたは完全に異なるパスを作成できます。分割ではRule Engine(ルールエンジン)を使用して、ユーザーが実行するかどうかを決定します。 分割の作成について学ぶ</p> <p>トリガーを次のトリガーと組み合わせる [Click and Next(クリックして次へ進む)] または [Type and Text(タイプアンドテキスト)] などのステップでトリガーを次のトリガーと組み合わせる場合WalkMeはオプションでSmart Walk-Thruへのブランチを追加します。このブランチには、ユーザーが他のトリガーではなく「次へ」をクリックすることで表示されるステップを簡単に追加することができます。</p> <p>分割をユーザーに決定させる バルーンにリンクを作成することで、ユーザーがパスを変更するかどうかを決定することができます。リッチテキストエディターから別のSmart Walk-Thruにテキストをリンクさせます。これにより新しいブランチが作成されSmart Walk-Thruを接続しますSmart Walk-Thruに接続したくない場合、マップから削除することで新しいブランチを使用してステップを追加することができますBBCodeを使用することもできます<trg=1]リンク名[p="" trg]をバルーンに入力して新しいブランチを作成します。<=""> </trg=1]リンク名[></p>

エラーを修正する

ユーザーがフォームでエラーを発生させることは非常によくあることです。こうした状況では、エラーを修正し、画面にエラーが表示されなくなった場合にのみ先に進めるように追加のステップを表示させたい場合が少なくありませんSmart Walk-Thrusアプリでは、エラー処理グループを使用して画面にエラーが発生した場合にのみ表示される一連のステップを簡単に作成することができます。

 <p>Walk-Thruの機能</p>	 <p>Smart Walk-Thruの機能</p>
<p>ステップ再生ルールと「ステップにジャンプ」 Walk-Thrusでのエラー処理は、ユーザーがフォームを送信した後に「ステップにジャンプ」を追加することで行います。「ステップにジャンプ」には、画面にエラーが表示されているかどうかを検出するルールがあります。「ステップにジャンプ」では、作成されたステップにジャンプしてユーザーが問題を修正できるようにします。こうしたステップには、画面にエラーが表示されず、ユーザーに対して「送信」をクリックするよう求める前のみ表示されるステップである「再生ルール」が存在します。</p>	<p>Error Handling Group(エラー処理グループ) エラー処理グループではRule Engineを使用して画面上のユーザーエラーを検出することができます。その後、ユーザーがミスを修正するのを支援するステップをエラー処理グループに追加できます。すべてのステップが再生されるとWalkMeがエラー処理グループルールを再度確認し、ユーザーがエラーを修正したかどうかを判断します。 ヒント: フォームで複数の個別フィールドを検証するにはSmartTipsを使用することをお勧めします。 エラー処理グループの作成について学ぶ</p>

ステップに複数のトリガーを追加する

ユーザーが次のステップに移動する前に、複数のエレメントをクリックするオプションが存在する場合があります。トリガーを追加することで、ユーザーがWalk-Thruを停止することなく選択できるようになります。Smart Walk-Thrusアプリで複数のトリガーを作成する場合、これまで以上に簡単でさらなるカスタマイズが可能になります。

 <p>Walk-Thruの機能</p>	 <p>Smart Walk-Thruの機能</p>
---	---

ステップ再生ルールと「ステップにジャンプ」

Walk-Thrusでのエラー処理は、ユーザーがフォームを送信した後に「ステップにジャンプ」を追加することで行います。「ステップにジャンプ」には、画面にエラーが表示されているかどうかを検出するルールがあります。「ステップにジャンプ」では、作成されたステップにジャンプしてユーザーが問題を修正できるようにします。こうしたステップには、画面にエラーが表示されず、ユーザーに対して「送信」をクリックするよう求める前のみ表示されるステップである「再生ルール」が存在します。

エラー処理ルール

エラー処理グループではRule Engineを使用して画面上のユーザーエラーを検出することができます。その後、ユーザーがミスを修正するのを支援するステップをエラー処理グループに追加できます。すべてのステップが再生されるとWalkMeがエラー処理グループルールを再度確認し、ユーザーがエラーを修正したかどうかを判断します。

ヒント：フォームで複数の個別フィールドを検証するにはSmartTipsを使用することをお勧めします。